

むらさきそう

西東京市立田無第一中学校
校長 辻 康一

(住所) 西東京市南町6-9-37 (電話) 042-462-2811

カラー版はホームページで

URL <http://www.nishitokyo.ed.jp/j-tanashi/>

立春の日に卵が立つ話

校長 辻 康一

2月4日は立春です。寒さはこれからが本番といったところですが、暦の上ではもう春ということになります。

さて、「立春の日には卵が立つ」という話があります。卵を立てるといって、コロンブスの話が有名です。アメリカ大陸を発見したコロンブスは、彼の成功を妬んだ人から「大海原を西へ西へと進めば、あなたでなくても誰でも新大陸を発見できただろう」と言われたことがありました。すると、コロンブスはテーブルの上に置いてあった卵を手渡し「これを立ててみてください」と言ったのです。そして、誰もできないのを確認してから卵のお尻をテーブルに打ち付けて殻を割り、立たせて見せたと言います。「そんな方法なら誰にでもできるだろう」と怒った人々に対して「人がやったのを見た後なら、誰でもそんなふうにするのです。難しいのは最初にやることです」と答えました。これは、彼がそれまで誰もやろうとしなかったことを成し遂げたという逸話ですが、ここに用いられているのは、おそらくゆで卵でしょう。

ところが、2月4日の立春の日には生卵が立つというのです。これは中国の古文書に書かれていた言い伝えを、今から70年前に上海で実験したことから大きな話題になりました。インターネットなどが無い時代ですが、このニュースは電信で世界中を駆け巡り、ニューヨークや東京でも同じ実験をしたところ、なんと2月4日には殻を割らない生卵がちゃんと立ったのです。なぜ立春に卵が立つかという謎に多くの人がいろいろな説を唱えました。

「一年で一番寒い時期だから生卵の密度が濃くなって重心が下がるから立つのだ」「立春は地球の重力のバランスが釣り合うからだ」と諸説が出回りましたが、どれも決め手となるものではありませんでした。

この報道に疑問をもち、徹底的に調べたのが世界で初めて人工雪を作り出した中谷宇吉郎博士でした。実は、卵の表面はザラザラしており、よく見ると小さな凸凹があります。その突起によってできる面積の中に卵の重心が通れば理科の実験で使うゴトクの3本脚の役目をするようになり、卵は立つことになります。そのことを博士は顕微鏡で卵の殻を観察したり、力学計算を行ったりして明らかにしました。つまり、卵は立春でなくても1年中いつでもまっすぐに立つのです。ただ、静かなところで揺れない台を選び、ゆっくり落ちていて5分や10分をかけるつもりでやる必要があります。

わかってみれば何でも無い話ですが、博士は「どうして気づかなかったのか」というところが問題だと指摘しています。また、「何百年もの間、卵が立たなかったのは皆が立たないと思っていたからである」とも記しています。

何事においても、先入観にとらわれていないか、常識だと思っていることも「本当にそうだろうか」と問い直してみるのが大切です。

第73回東京都公立学校美術展覧会開催のお知らせ

東京都の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校の児童生徒の代表作品が、校種を越えて一堂に会する展覧会です。ぜひご高覧ください。

会 期：令和6年2月14日（水）～18日（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時30分（入場は午後5時まで）なお最終日の2/18（日）は、正午（入場は午前11時30分）までとなります。ご注意ください。

【第1学年】 スキー教室

1学年では1月12日（金）から14日（日）の3日間、初めての宿泊行事となるスキー教室に行ってきました。白樺湖近くにある八子ヶ峰ホテルに宿泊し、スキー実習を受けました。スキーの経験がない人も多く、スキー板をつけることさえ難しいと感じた人も多かったようです。

2日目の午後は吹雪の中の実習でしたが、スキーの技術を身に付けようと諦めず何度も挑戦していました。3日目には滑れるようになり「もっとスキーをしたい」という声を多く聞きました。宿舎では、時間を意識した行動ができ、入浴時のマナーなども大変素晴らしく、その姿に成長を感じました。事後のアンケートで90%以上が楽しかったと回答し、スキー教室を成功させることができました。今後は学校生活でも力を出し惜しみせず、自分たちのできること、やるべきことに全力で取り組んでほしいと思っています。



担当 杉原 慶

【IJ学級】 生徒作品展（きらっと）

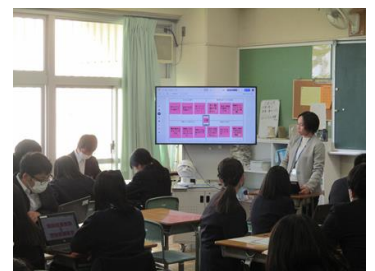
1月13日（土）から15日（月）に西東京市スポーツ・文化交流センター「きらっと」にて、西東京市生徒作品展が行われました。各校が美術や技術などの授業で制作した作品が数多く出展されていました。IJ学級からは、美術の紙粘土作品や職業（I組）で取り組んだタマネギの皮を使った草木染、技術（J組）の木工ライト、陶芸のコップ、修学旅行で行った漆器加飾の作品、移動教室で訪れた沖ノ島で頂いた貝を加工したキーホルダー等、日々の授業で制作した作品を中心に約190点を展覧しました。

1月15日（月）に、IJ学級の生徒全員で見学に行きました。生徒たちは、他校の作品を見て感動や刺激を受けるとともに、自分達の作品が展示されている様子を見て、制作活動の達成感を味わうことができました。今後の制作活動にも意欲的に取り組んでほしいと思います。

担当 IJ学級 足達 朋哉

【第2学年】 デジタル・シティズンシップの授業

2学年では1月31日（水）にデジタル・シティズンシップ教育（以下、D・C教育）に関する公開授業を行いました。D・C教育の6領域の一つである「メディアリテラシー」に関連づけて、インターネット上における著作物の取り扱い（著作権など遵法精神・公德心）について学び、生徒は『自分との約束』を考え、次のような今後の行動規範を立てました。生徒の記入内容には、「スマートフォンは手軽に世界中の人々と交流することができて便利である。便利であるからこそ気づかぬうちにしてしまう違法行為があることを学んだ。便利さと危険性に考慮して使っていきたい。」などがありました。また、ワークシートには、保護者記入欄を設け、家庭におけるD・C教育への関心および理解を深めていただけるようにもしました。保護者の方からは、「これからの時代は法や決まりをきちんと守ること（コンプライアンス遵守）が今まで以上に重要となるということを認識してほしいと感じております。特にSNSなどスマホの利用には細心の注意を払って行動してほしいです。このような授業をしていただきありがとうございます。」との感想をいただくこともできました。来年度も引き続き行ってまいりますので、ぜひ学校と家庭との共通理解で進めていけるようにご協力ください。



担当 金子 圭太

《今後の予定》

2月13日（火）	生徒朝礼	14日（水）	学年末考査1週間前
19日（月）	IJ学級三者面談（始）	21日（水）	学年末考査（1日目）
22日（木）	学年末考査（2日目）	26日（月）	1～2年教育相談（始）